

窓口支援事例 【神奈川県 知財総合支援窓口】 平成29年度版

企業情報

3way mask 屋

所在地	神奈川県平塚市		
ホームページ URL	http://3waymask.com/		
設立年	2012年	業種	卸・小売業
従業員数	1人	資本金	100万円

企業概要

アイマスクと通常のマスクとの組み合わせた3つに変化するマスク「3way mask」の特許取得（特許第4851628号）に伴い、2012年2月に起業をいたしました。意匠権、商標権もその後取得し（意匠登録第1454396号、商標登録第5493689号）、販売を開始しました。生産はNPO法人へ委託し、販売もネット販売の企業（地球の歩き方T&E様や相日防災様、NPO法人KOMONY様等に委託しております。また、高速バス、災害時の備蓄品用として、アイマスク部を不織布高圧圧着させ、1枚あたりの単価を下げるなどの企業努力を行い、安価販売品として拡販を図っております。



自社の強み

マスク、アイマスク、フェイスマスクとしての有効性を知り尽くし、「3way mask」の企画から開発、製造、販売まで一手に実施しております。小企業ですが、世間の動きに合わせ商品展開でき、NPO法人での製造を行うことにより福祉事業への協力も行っております。平成27年2月には、東日本大震災の被災者仮設住宅用として、陸前高田市長宛に同製品を300枚（1500袋）を寄付するなど、社会活動を通じた製品販売を行っているのが強みです。

一押し商品

本事業では、現在「3way mask」のみを販売しております。以前のマスクは布で生産され、洗濯をして再利用するものでしたが、現在は衛生面の観点から使い切りのものばかりです。本マスクはアイマスク、マスク、フェイスマスクと3つに変化し、かつ使い切りが出来ます。これは航空機や高速バス、列車などにおいて、一つのマスクで3ウェイに使える大きな利点があります。このマスクは平成25年度横浜発明振興会の最優秀賞に選ばれ、知財専門誌「NewテクノマートSO(創)」にも掲載されました。さらに、2014年5月にはテレビ東京の経済情報番組(WBS)のコーナーであるトレンドたまごに当商品が紹介され、大きな反響があり、引き合いも多数頂いており、中には航空会社からの引き合いもあります。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

相談者は、自力でマスクの特許を出願、取得しており、知財総合支援窓口へは、その事業展開の相談に来られたのが最初です。当初は「3way mask」以外にもアイデアがあり、それらの権利化や、登録された特許の有効活用などを目的として相談に来られたようです。

最初の相談概要

当初は、特許として権利化したマスクの技術供与先を探すべく、紹介などを期待して来られたようです。しかしながら、当時は個人での出願でしたので、技術を売る企業についても当てはなく、窓口でも製造販売してくれる企業紹介は出来ませんでした。

その後の相談概要

その後、せっかく特許が取れたのだから、ということで自身で製造販売する事を勧めました。まずは神奈川県での製造を考えるということで、企業ではなく障害者の福祉施設を考え出し、そこに製造と製品保管をお願いし、自身は営業活動をするため、起業しました。その後、マスク以外にも商標や意匠の出願相談のため、年に7回前後来られて相談を受けました。

窓口を活用して変わったところ

知財としてはどれも等しく大事だけれども、その権利にも優劣があって、より強い権利やビジネスに結びつくような商標などを考えておられます。知財の重要性とその限界を認識して、有効な権利化を考えようになられました。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

ちょっとしたアイデアでも、特許を取り起業すればビジネスに結びつけられると思います。起業した後、商品の製造と販売ルート、良い販売先を見つけることが大事で、窓口では直接企業紹介はしてもらえませんでしたが、適切なアドバイスはいただきました。無料で相談に乗ってもらえるので、是非有効に活用して下さい。

窓口担当者から一言 （氏名：広島 政広）



マスクは鼻や口を覆うものという概念から、同時に或いは単独でマスクとして機能するものを考え特許権を取得することが出来たのは素晴らしいことです。起業してまだ間もないため、地道に世に広めていき、大きなビジネスに成長して欲しいと思います。